

診療科目 ● **消化器・腫瘍外科学**

● **消化器・腫瘍外科教室 A. 消化器外科専攻コース**

プログラム責任者：遠藤 格

附属病院	消化器・肝移植外科コース
主任教授	遠藤 格 (消化器・肝移植外科部長、消化器・腫瘍外科学教授)
准教授	秋山 浩利
講師	武田 和永、松山 隆生
助教	熊本 宜文、小坂 隆司、森 隆太郎、石部 敦士、樺山 将士、大田 洋平、澤田 雄
附属市民総合医療センター	消化器病センター (外科)
教授	國崎 主税 (消化器病センター部長)
准教授	大田 貢由
助教	南 裕太、山口 直孝、諏訪 宏和、泉澤 祐介、中川 和也

本プログラムの特徴

教室の消化器外科医育成プログラムの目指すものは、心体に優れ地域医療と最先端医療の両方に情熱を持つ外科医の育成であり、ゴールまでの明確なルートを提示しています。具体的には後期研修医の3年間終了までに日本外科学会外科専門医資格が取得できる手術症例数を経験してもらうことと、年1回以上の学会発表、論文報告を行ってまいります。その後、大学院に進学あるいは関連病院でさらに研修をつみ、卒後10年目前後で日本消化器外科学会専門医資格を取得できるまで育成します。教室には神奈川県内に10以上の公的病院が教育関連施設として協力してくれています。教室には多くの後期研修医が在籍していますので、不公平のないように毎年の経験症例数を報告してもらい翌年のローテーションを決めています。後期研修3年間は年間150例執刀してもらうことが可能です。また上記の協力病院の多くは消化器外科・乳腺外科が中心となりますので、外科専門医資格を取得する際に呼吸器・心臓血管外科の症例数が不足する場合があります。その場合は呼吸器・心臓血管外科の症例数の多い関連施設または大学附属病院内の心臓外科で3ヶ月間の研修を行ってもらうようにローテーションを配慮します。

目 標

消化器病学、外科学総論についての知識を習得し、画像診断はもとより、外科基本手技、消化器外科における低～中難易度手術の手術手技を身につけて、日本外科学会専門医を取得する。

目標とする学会認定専門資格

日本外科学会専門医

日本消化器外科学会専門医

主な協力病院

国立病院機構横浜医療センター、横浜市立市民病院、藤沢市民病院、横須賀市立市民病院、伊東市民病院、横須賀共済病院、済生会横浜市南部病院、横浜市立みなと赤十字病院、横浜保土ヶ谷中央病院、横浜掖済会病院、NTT 東日本関東病院、済生会若草病院、長津田厚生総合病院

診療科のホームページ URL

<http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~dai2geka/>

担当者・連絡先

松山 隆生  
E-mail : ryusei@yokohama-cu.ac.jp  
TEL:045-787-2650

診療科の実績

附属病院では、年間新規患者数は580名以上、定期外来通院患者数は延べ約12,800名、年間入院患者約900症例の診療にあたっています。市民総合医療センターでは、新規患者数は年間2,950名以上、年間定期外来通院患者数は延べ約52,400名、年間入院患者約2,400症例を数えます。関連施設は、横浜市立市民病院、藤沢市民病院、横須賀共済病院、済生会横浜市南部病院などの地域中核または地域がん拠点病院に指定されている施設が多く、診療実績を経験・研修していく上での環境が充実しています。平成25年度の関連病院全体の手術症例数は、胃癌1,100、大腸癌2,100、肝癌300、膵癌190、ヘルニア2,100、乳癌1,400例となっています。

指導医から一言

消化器・肝移植外科の専門医プログラム（後期研修）は、消化器外科専門医を習得するための第一ステップであり、外科専門医をできるだけ効率的に3年間で取得できることをめざしています。そのため、大学病院のみならず、関連地域の協力病院でも外科研修を習得していただくこととなります。大学施設の消化器・肝移植外科、消化器病センターでは、消化器癌、炎症性腸疾患、肝移植、消化器癌の化学療法、腹部救急などが学べますが、外傷、呼吸器外科、その他の一般外科については、主に協力病院で研修していただくこととなります。専門医プログラム（後期研修）終了後は、大学病院で基礎・臨床研究を2年間行っていた後、引き続き消化器外科専門医取得のためのプログラムを継続していただきます。卒後10-12年で75%の医局員が、消化器外科専門医資格を取得しています。技術、研究面で欧米諸国に遅れをとらないようなグローバルな卒後教育をめざしており、大学院生は積極的に国内外に留学しています。ぜひ、本診療科の専門医養成プログラムにご参加いただければ幸いです。

